

「白山第2キャンパス図書室」開室

2009年4月1日(水)より国際地域学部が板倉キャンパスから白山第2キャンパスに移転しました。それに伴い、「白山第2キャンパス図書室」が開室されました。

- ・開館時間：平日／9：00～20：00 土曜／9：00～16：00
- ・蔵書数：和書／11,458冊、洋書／3,401冊
- ・視聴覚資料：233点
- ・雑誌：和雑誌／148タイトル、洋雑誌／77タイトル
- ・閲覧座席数：178席

白山図書館

初等教育課程開設に対応する「教職に関する科目」及び「教科に関する科目」関連の資料、主に主要4教科(国語、社会、算数、理科)及び他の教科に対応する資料の充実を図ります。

川越図書館

理工学部と総合情報学部が開設され両学部の学習支援に必要な資料の充実を図ります。

朝霞図書館

生活支援学科の生活支援学及び子ども支援学の2専攻体制に伴い、関係資料の充実を図ります。

板倉図書館

応用生物科学科と食環境科学科が開設され、両学科の学習支援に必要な資料の充実を図ります。

図書館利用上の注意

1. 学生証・本学発行の身分証明書または図書館利用カードを必ず携帯してください。
2. 飲食、喫煙、雑談、及び携帯電話での通話は厳禁です。
3. 図書館資料は大切に扱ってください。紛失、書き込み、汚損をした場合は弁償していただきます。
4. 貸出手続きをしていない資料を持って退館ゲートを通るとアラームが鳴ります。その際は持ち物を確認させていただきます。
5. 貴重品は常時携帯してください。

利用者の方々の個人情報の取り扱いについて

東洋大学附属図書館では、利用者の皆様から取得した個人情報は目的以外では使用いたしません。

本人から直接書面により個人情報を取得する際は、原則として本人に利用目的を明示します。



著作権について

著作権とは

知的財産権(知的所有権)の一つ。文化的な創作物(=著作物)と、その創作者(=著作権者)の権利を守ることを目的とし、著作権法という法律で保護されています。

通常、著作物を創作した時点で自動的に著作権が発生し、著作者の死後50年まで保護されるのが原則となっています。

図書館での複製

著作権法第31条に基づき、以下のような条件で複製(コピー)することが可能です。

1. 図書館が所蔵する資料であること
※自分が持ち込んだ資料やノートはコピーできません。
2. 複製の範囲は、著作物の全部ではなく一部分であること
※資料をまるごとコピーすることはできません(二分の一以下)。
3. 定期刊行物に掲載された各論文その他の記事はその全部であるが、発行後相当の期間を経たもの(次号が既刊となったもの、または発行後3か月を経たもの、等)に限ること
4. コピー部数は一人について一部のみであること
※一人で複数部コピーすることはできません。
5. 利用者の調査研究に限ること
6. 有償無償を問わず、再複製したり頒布したりしないこと

KOΣMOΣ



Contents

- 新副館長挨拶……………2
- 「知識基盤社会」における大学図書館の役割……………3
- 『対馬帰属問題資料』……………4
- 図書館ガイダンス実施報告……………6
- 図書館所蔵資料展報告……………7
- コスモスインフォメーション……………8

東洋大学附属図書館 副館長（川越）

新学部と図書館



たむら よしあき
田村 善昭
総合情報学部教授

川越キャンパスではこの4月から新たに理工学部と総合情報学部がスタートしました。川越図書館はこれまで主に工学部のための図書館として工学分野を中心に機能してきました。これからは、新しい学部と共に、理学や人文科学の分野にもその範囲を広げていくことが期待されていると思います。このような川越図書館にとって大切な節目の年に副館長を拝命したことは、大変な名誉であると共に、その責任の重さも痛感しているところです。考えてみると、私

も読書は好きで、大学の往復の電車では文庫（娯楽小説ばかりですが）を手放しません。図書館となると、年に数回、古い書籍や論文を探しに行く他は、ネットでの論文検索がほとんどで、お世辞にも熱心な利用者とはいえません。どのようにすれば、より多くの方にもっと気軽に利用していただけるのか、みなさんのお知恵を拝借しながら、副館長の責務を果たしていきたいと思っています。

東洋大学附属図書館 副館長（朝霞）

充実した図書館をめざして



さかぐち まさはる
坂口 正治
ライフデザイン学部教授

ライフデザイン学部は、東洋大学朝霞キャンパスに9番目の学部として開学して以来、はや、5年目を迎えようとしています。朝霞図書館におきましても、生活支援学科生活支援学専攻と子ども支援学専攻、健康スポーツ学科、人間環境デザイン学科ならびに大学院研究科との連携をはかりながら、それぞれの教育目標を念頭に置きつつ学際的な学部の特色を反映した幅広い資料の収集を行ってきました。ライフデザイン学関連の図書および専門雑誌等の充実をす

めていくことはもとより、大迫正文前副館長が取り組んできました隣接4市（朝霞市、志木市、新座市、和光市）に広く開放された図書館運営をさらに推進させ、市民と学生・教職員が相互に理解を深めることができるような機能の拡大を心がけていきたいと思っています。

今後とも学生・教職員だけでなく、市民の方々からのご要望も受け入れられるような充実した図書館をめざします。みなさまのご支援とご協力をお願いいたします。

東洋大学附属図書館 副館長（板倉）

知の継承と創造を目指して



わだ なおひさ
和田 直久
生命科学部教授

今年4月から板倉キャンパスでは生命科学部が3学科（生命科学科、応用生物科学科、食環境科学科）に拡充され新たな教育・研究活動が始まりました。そこで、他キャンパス図書館との連携強化、地元住民への利用サービスの向上に加えて、新学科の専門分野の蔵書を充実してまいります。また、リベラルアーツに関連した収書などを通して知識の継承に努めます。さらに昨年の日本人4名のノーベル賞受賞者の独創的な研究成果は40年以上前に公表されたものであ

り、インターネットのない研究環境下で達成されたことからすれば、サイバースペースに手軽に接続して世界中の情報を瞬時に検索できる現代社会においては、過多の情報はむしろ自由な発想を萎縮させようとの見方にも注意を払いつつ、データベースの適切な活用法を学生の創造性を育む有効な手立てとして捉え、学部・大学院と連携しながら教育活動にも寄与してまいります。

「知識基盤社会」における 大学図書館の役割



あさの きよし
浅野 清
経済学部教授・前図書館長

大学全入時代の到来。4年間でいかに育てて世の中に送り出すことができるかが問われる時代に、図書館が担う役割は何だろうか、考えてみた。と同時に、21世紀は「知識基盤社会」であり、そのために「自己学習力」を身に付け、「生涯学習社会」で活躍できる能力の涵養が大学に求められていることも重々、認識したうえで。

医者や教師など、将来の目標がはっきりした学生ばかり入学してくるわけではない。教育は「引き出す」ことしかできなくて、無理やり「詰め込む」ことではない。英国ではギャップ・イヤー制度が根付きつつあるが、年齢規範の強いわが国では、第一セメスターの教育を工夫することで対応せざるをえない。

(1) 基礎ゼミにおける異なる学生との交流などは大きな意味をもつ。ゼミなどで課題をこなしながら、自分の道を見つけていく。第一セメスターの学生にとって図書館の意義は大きい。図書館は大学を実感する空間の一つである。書庫はすべて開架式になっているし、広い空間のなかで、本を手にとって見るのが重要だ。本屋さんが配置を日々工夫しているように、図書館も旧来の分類に基づく配置だけでなく、学生が手にとって立ち読みできるような工夫が必要ではないだろうか。

(2) 学士課程教育全般にわたり、参考書指定した図書を受講生50人に1冊ほど、シラバス作成時点だけ

でなく、常時、教員の要請に応じて揃える。減価償却制度を図書にも適用すれば難なくできるし、学生への授業料還元にもなる。

(3) シラバスに載りきらない情報もある。レポート課題や過去2年間の試験問題と模範解答例を特別コーナーで閲覧のみ可能な形で配置してはどうだろうか。この「レポート作成支援室」にはTAやSAが常駐していて、レポート作成のアドバイスを受けることができる。昨年末に出た中教審の最終答申『学士課程教育の構築にむけて』を読むと、欧州の単位互換制度を強く意識していることがわかる。通常の講義時間だけでなく、予習・復習時間の設定と換算が求められる時代の到来も、遠いことではないであろう。

(4) 大学が実施している各種学生調査では、資格や検定試験対策講座への参加要求が強い。正規課程以外にも大学はこうした需要に答えていかなければならないだろう。自ら到達目標を設定して、試験合格者や先輩とともに学ぶ。司法試験、公認会計士試験、税理士試験むけに必要な雑誌や書籍を集中したコーナーや部屋を図書館の中につくるべきであろう。生涯学習の時代、卒業生も一般市民もこの“学びの館”に集うことだろう。

箱物行政から脱却して、必要なものを作っていく。これが今もとめられているのだろうか。



対馬帰属問題 資料

「対馬」を「つしま」と読むことは、日本人には良く知られていて難読地名でもないだろうけれど、海外の日本語初学者にとっては難読地名であろう。「対馬島」と書いたら、何と読むか。これは日本人でも戸惑う場合が多いかもしれない。「つしまじま」あるいは単に「つしま」と読む。

韓国語では「対馬島」に対応する音として「テマド」ないし「テマド」の語があり、「テマ」(対馬)と言う例は聞いたことがない。昨年、対馬の向かいにある韓国第二の島、巨済島(コジェド)に行き、その知識人から話を聞く機会があったが、対馬に話が及んだとき、「テマドは日本語ではタケシマと言いますか」と思いがけない発言を耳にした。アメリカに留学した人で英語は達者だが、日本語世代ではない。しかし、片言の日本語はあれこれ知っている。韓国で竹島(韓国では「ドクト=独島」という)問題が沸騰するとき、対馬島も併せてよく耳にされる。二島が込みになって記憶には残っているが、積極的に関心を持ったことはなかった人のようである。

巨済島からウェド(外島)に行く遊覧船が出ている。外島は「冬のソナタ」の最後の舞台となる「不可能の家」のある個人所有の島で、「ヨン様家族」



まつもと せいいち
松本 誠一

社会学部 教授

- 専攻・専門分野・所属学会等
人類学・韓国研究
日本文化人類学会、韓国・朝鮮文化研究会、比較民俗学会、日本カナダ学会等に所属
- 著書・論文・研究テーマ等
『韓国の郷土信仰』(訳書)(第一書房)
『文化人類学ノート』(共著)(犀書房)
『生活文化論ノート』(編著)(高志書院)
『性と年齢の人類学』(共編著)(岩田書院)ほか
カナダ・東南アジア・ドイツ等、在外韓人社会の研究

なら知らない人は居ない。釜山観光案内のサイト「プサンナビ」で巨済島、外島への行き方を案内している。

対馬は日本と韓国を「隔てる」、あるいは「結ぶ」海峡に位置する島である。この島への往来は飛行機、船ともに福岡からが便利であるが、行政上は長崎県に属する。対馬は山島で、雲・霧に隠れやすく、飛行機が欠航することがよくあるので、飛行機で行こうとする場合は要注意である。

対馬は古来、大陸と日本との間の交通の架け橋としての役割を担ってきた。江戸時代は対馬宗家が日本側の窓口となって、現在の釜山に倭館という公館、商館があり、対馬—倭館経由で徳川幕府と朝鮮王朝との交流が積み重ねられていた。倭館は長崎の出島のように閉じられた空間であった。

近年、日朝関係の根本史料である『対馬宗家文書』がマイクロフィルム

化され、その膨大な量の全巻を東洋大学図書館では数年にわたって買いそろえた。3年前に出版社から聞いた話では、すべてそろえたのは慶応大学・麗澤大学・東洋大学の3校の図書館だけであった。それ以外の国立大学や国立博物館などにも納められていなかった。

慶応大学には『対馬宗家文書』研究の第一人者で、マイクロフィルム化の監修をされた田代和生教授がおられ、麗澤大学には対馬宗家の御子孫が教授でおられたということを考えれば、両大学に備えられるのは当然と思われるが、東洋大学ではいち早くよく購入してくれたと思う。その後、3大学以外にも所蔵機関は増えてきている。この経済状況の中で各機関とも予算面で厳しかろうが、相当の高額であるにも拘らず購入されているのは、その重要性が多分野で強く認識されているからであろう。



対馬市厳原町 長崎県立歴史民俗資料館

ところで、今般、その対馬の領土問題に関わる外交問題検討資料が本学図書館に所蔵されるようになった。この資料は、封筒表書きに「対馬帰属問題資料一括 昭和23年、24年 韓国李承晩大統領の対馬割譲要求への日本政府対応策」と記されているところから窺えるように、日韓関係において歴史的価値の高い資料であると思われる。

文書「対馬島帰属問題要点」には以下のような記述がなされている。

「李承晩大統領は八月十七日の記者団会見で、対馬の割譲を要求する旨を言明した。朝鮮(大韓民国)が如何なる方法によって要求しているかは明かでないが、大体確実と思われる筋から入手した資料によればマ司令部と同時に国連に対して提訴した模様である。

対馬が日本領であることは近代以降は全く内外共に認めるところであり、且、古代から日本領であったものとして誰一人疑うものがない所であったが、既に昨年からは朝鮮側から、対馬を要求する声が出て新聞紙上に散見してより、大分世人の注目を引くところとなった。

而して現在我が国にある資料では別紙の如く、かの応永の変(一四一九、二〇)の際、対馬軍が敗れ、和を結ぶ際、朝鮮に臣属することを申出、

印綬を受けたことが一度あるが、(それが辞令上の問題で、実際には朝鮮が対馬を自国として取扱った事実は何もないことは別紙資料参照)その他は全くない。一体、朝鮮側は何を根拠してかかる申出をなしているのだろうか。之についてはその国連提出書類のコピーを入手すべく努力したが、未だ入手出来ない。目下判断した所では、大体次の様なものらしい。(後略)」

李承晩大統領の対馬割譲の言明から60年。今日もなお、韓国国会に「対馬島返還要求決議案」が出されたり、韓国から抗議団が対馬に来て、対馬を韓国領土と主張して対馬で示威運動する行為があったりしている。また、対馬に来る韓国人観光客・釣客の増加に対応して、対馬で宿泊業等を営む韓国人の進出、対馬の土地を購入する韓国人の動きなどに対しても、それに反発する書き込みがインターネット上で燃えている。対馬帰属問題は日韓間で必ずしも決着を見ていると言えない国民感情が今日もなお両国にある。

文書に見える記名から、当時外務省審議官であった人物の手元でまとめられた資料と推察されるが、どのような経緯で古書市場に出てきたものかは分からない。筆者は外交史を専門とする者でもなく、この資料一式が

本物か贋物かの鑑識眼も有しないので、まずは歴史研究の基本である史料批判から着手されるべきであろう。

資料中には「極秘」朱印が捺された「国境對馬の防衛と開発に関する件」、丸秘の朱印が捺された「対馬問題要領」という印刷文書をはじめ、「外務省」「長崎県」「厳原町警察署」などの用箋にインク手書きで書かれた文書、「大東亜省電信案用箋」に墨書された文書その他がある。こういう各種の用箋を見ると、まず贋物ではなからうが、どうであろうか。

各文書に記された内容の多岐にわたるのを見ると、(1)領土問題が生じたときに、役人が相手側主張の根拠、係争地の鉱物、植物、動物、考古、言語、歴史、産業、密入国、密輸、町制、等々、あらゆることを調べ上げる、(2)そのため、関係機関、関係領域の学者にも情報提供を求める、などのことが遂行されていたのが窺える。その結果として、書類綴りの厚さが約3.5センチ、7センチにまで資料がまとめ上げられていて、一気に努力を注ぎ込んで編纂した日々であったろうと想像するとき、あれこれと感慨が沸いてくる。

これらの情報が全体として、部分として政府要人、外交実務者の公式発言の基礎として、どのように実際の役に立ったか。何かの備えとして用意しただけに終わったか。こういうことに思いを馳せると、研究者が成果発表することを前提とする研究活動とは異なった、知の努力の営みを察する。ここでの、必ずしも報われないかもしれない知の努力に献身する人材の能力も、人文・社会科学の研究方法によって同じく支えられているのを知ると、ゼミレポートがきちんと作成できるか、ゼミ生諸君の自問自答もきりりと締まってくるであろうか。

図書館ガイダンス実施報告

図書館では毎年度、図書・雑誌の検索方法からデータベースを使った雑誌論文・新聞記事の探し方、電子ジャーナルの利用方法など、レポート作成・卒論等に役立つガイダンスを実習形式で定期的に行っています。開催日時については図書館ホームページや館内ポスターにて随時お知らせしますので、積極的に参加して情報リテラシー*を身につけてください。

白山、朝霞、川越、板倉の各図書館で、学部の特色に合わせてガイダンスを開催しました。



「新入生ガイダンス」

対象者：新入生（実施館：白山、川越、朝霞、板倉）
図書館の概要説明と図書館より受けられるサービス内容を説明しました。

「図書館ツアー」

対象者：新入生（実施館：白山、川越、朝霞、板倉）
図書館職員が引率して実際に図書館を回りながら、図書館の施設と利用方法について案内しました。

「情報検索基礎実習」

対象者：全学年（実施館：白山）
パソコンを使って、蔵書検索システム「OPAC」を使いこなすための実習を行いました。

「授業別申込制ガイダンス」

対象者：全学年（実施館：白山、川越、朝霞、板倉）
教員からの希望制により、授業時間内に図書館職員が図書館利用案内や情報検索実習を行いました。レポート作成のための情報収集のテクニックやコツを、学部の特色に合わせて説明しました。

「個別申込制ガイダンス」

対象者：全学年（実施館：白山、朝霞）
参加者ひとりひとりの希望に添って、少人数形式で情報収集方法の説明や実習を行いました。

「データベースガイダンス」

対象者：全学年（実施館：白山、川越、板倉）
各データベースにつき外部講師を招いて、レポート作成や就職活動に活かすための利用方法と検索テクニックについてのガイダンスを開催しました。

ガイダンス実施データベース

白山 ：Academic Search Premier (人文・社会・自然科学分野の海外雑誌タイトル全文情報) LEX/DB インターネット (全法律分野の判例・判決・要旨情報) Factiva.com (世界の主要新聞、業界紙、雑誌などのビジネス情報) LexisNexis Academic (世界中のニュース・企業情報・産業情報・判例) Japan Knowledge (百科事典・辞書・ニュース・学術サイト)	川越 ：JDream II (科学技術系や医学系の学術雑誌) Web of Science (自然科学・社会科学・人文科学の重要学術雑誌)
	板倉 ：日経テレコン21 Japan Knowledge 2008年度は、図書館ガイダンスに多数のご参加をいただき有難うございました。 2009年度も、皆さんの情報リテラシー*アップのために様々なガイダンスを企画していますので、奮ってご参加ください。

*情報リテラシーとは…情報を十分に使いこなせる能力。大量の情報の中から必要なものを収集し、分析・活用するための知識や技能のこと(デジタル大辞泉より)。

図書館所蔵資料展報告

井上円了生誕150年



東洋大学は1887(明治20)年、井上円了が創立した「私立哲学館」によりその歴史が始まりました。円了は1881(明治14)年、創立間もない東京大学の文学部哲学科に、ただ一人の新入生として入学し、哲学は、『思想錬磨の術として必要なる学問』で、人は肉体を錬磨するために運動や体操をするように、精神を錬磨するために哲学を学ぶ必要があると考えます。そして、1887(明治20)年、「諸学の基礎は哲学にあり」という教育理念を掲げ、29歳という若さで、「私立哲学館」を創立しました。2008(平成20)年は井上円了の生誕150年にあたり、川越・板倉の両図書館で、円了の生涯をはじめ、志した教育理念とは何か、東洋大学の120年の歩みなどを、関連資料をもとに紹介しました。

【略歴】	
1858年(安政5)	3月 越後国(現・新潟県)の真宗大谷派慈光寺の長男として生まれる
1885年(明治18)	7月 東京大学文学部哲学科を卒業
1887年(明治20)	9月 本郷麟祥院に「哲学館(東洋大学の前身)」を設立
1888年(明治21)	6月 第1回海外視察(他に海外視察を2回行う)
~1889年(明治22)	6月
1890年(明治23)	11月 全国巡講を開始
1904年(明治37)	4月 私立哲学館大学と改称し、初代学長に就任
1905年(明治38)	12月 哲学館大学長を辞任
1906年(明治39)	6月 「私立東洋大学」へ改称
1919年(大正8)	6月 中国・大連で脳溢血のため客死(享年61)



2008年度4館企画展・常設展テーマ一覧

白山図書館

「シェイクスピアの世界」 5月20日~7月25日
 「オリンピックの歴史と現在」 7月30日~10月10日
 「孔子の教え」 10月17日~11月28日
 「源氏物語千年紀によせて」 10月28日~11月2日
 「図書館所蔵貴重書パネル展」(ホームカミングデー) 11月2日
 「西鶴と文楽・歌舞伎」 12月8日~2009年2月23日
 「わたし達の東洋大学(常設展)」 2009年3月13日~5月15日



2008年度は、源氏物語千年紀、北京オリンピックにちなみ、各館同テーマで所蔵資料を紹介しました。2009年度の企画もご期待ください。

川越図書館

「オリンピックの歴史と現在」 5月19日~6月5日
 「円了博士の生誕150年」 7月7日~7月25日
 「ロボットと共生」 10月14日~10月31日
 「『源氏物語』千年紀」 12月1日~12月19日

朝霞図書館

「長寿社会を生きる~介護の現在~」
 4月14日~5月30日
 「『源氏物語』千年紀」 6月9日~6月21日
 「オリンピックの歴史と現在」 6月29日~9月5日
 「健康づくり」 9月16日~10月31日
 「ユニバーサルデザイン~暮らしを便利に~」
 11月10日~2009年1月16日

板倉図書館

「オリンピックの歴史と現在」 6月23日~7月4日
 「井上円了生誕150年」 10月6日~10月31日
 「『源氏物語』千年紀」 11月10日~11月21日
 「古河の歴史と文人たち」 12月8日~12月19日

表紙 解説

表紙：『はつき木』源氏物語帯木巻 伝阿仏尼筆紀州家旧蔵、鎌倉時代中期古写本

当館が所蔵する『源氏物語帯木巻』は紀州徳川家に伝来し、鎌倉時代の女性歌人阿仏尼(? - 1283)の筆によるものと伝えられる古写本です。阿仏尼筆による他の巻の写本は確認されていません。大正時代末より所在不明でしたが、昭和41(1966)年に古書展に出品され、東洋大学附属図書館の所蔵となりました。

青表紙本(藤原定家による写本)に近い古写本は稀少であり、源氏物語の研究において重要な価値を持つといえるでしょう。

(2008年10月開催の「源氏物語千年紀によせて」展において展示されました。)

